

〈園庭南側での、あんなこと・こんなこと〉

すべり台のある南側での遊びから、いくつかエピソードを紹介します。

その1. 「だって、楽しそうだから ♪」 〈土粘土〉

自転車小屋近くの山の片隅(ブランコのある辺り)に、土粘土が埋まっています。それを掘り出し、水を加えていくと・・・カチカチだったものが、変幻自在の粘土に変わっていくのです。それを、○(おだんご) △□♡☆などの形にしていきます。

その日も、いろいろな形を作ったり、さら砂をかけてツルツルにする、などみんなでしていました。そんな中、普段ドロドロを触ったり、手が汚れることが苦手なAくん。私の作ったものにさら砂をかけてくれたのですが、気がつくと、土粘土を触り、手がドロドロに！思わず「いいの？」と聞くと、「大丈夫。だって、みんな楽しそうだから ♪」 —— なんと嬉しい言葉でしょう。

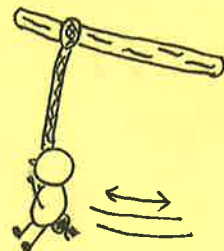
保育者や友達から言われてするのではなく、みんなの様子を見て、手が汚れることもいとわず、思わずやりたくなった —— そんなAくんの気持ちがこの言葉に表れているのだと思いました。

その2. “あっ、できた！！” 〈ターザンロープ〉

3学期になり、年中さんとたくさん遊んでいる年少のHちゃん。この日も一緒に遊んでいたのですが、途中でその年中さんがターザンロープをしに行きました。すると、今まであまりターザンロープをしたことがないHちゃんも後を追っていきました。“初めてじゃないかな、できるかな”と見て見ると・・・やはり、ロープにしがみつくこともままならず、苦戦していました。しかし、何度目かでしっかりとロープを持ち、足を絡ませ、ぶらーんとぶら下がることができたのです！

まだまだ、楽しむまではいかないかもしれませんが、しかし、仲良しの子がしていることで、チャレンジしようという気持ちを持たれたことが嬉しいことでした。

友達の力は大きいですね。



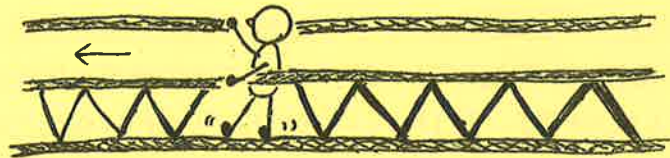
その3. 「7回もしたよ♪」

＜モンキーブリッジ＞

年少のIちゃん。モンキーブリッジができるようになったことが嬉しいようで、何度もわかっていました。最後、ゴール地点から下りるところが難しかったりもしましたが、徐々にスムーズに下りられるようになっていました。

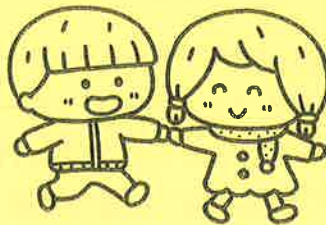
「いっぱいできたね」と声をかけると、「うん。7回もしたよ♪」と嬉しそうに答えてくれました。できた、という喜びと同時に、自分で数えるくらい、その1回ずつが自信になっているのだと感じました。

その後、クラスの先生やお母さんにも、「モンキーブリッジ7回したよ。」と報告していました。



3学期になり、できることが増えたという体の成長だけでなく、できなかったこと・苦手なことにチャレンジしてみようという心の成長も感じられる、この頃です。ぜひ、「いっしょにあそぼうの日」には、おうちの方たちも一緒に楽しみましょう！！

(Kumi)



手裏剣だいすき♡

年少さんを中心に2学期からずっと続いている手裏剣づくり。最初は、年長さんや保育者に折ってもらっていましたが、少しずつ自分でも折れるようになり、「作って!」と言っていた子どもたちが、「一緒に折ろ〜♪」と、年長さんや保育者を誘うようになりました。いろいろな色の手裏剣をコレクションするだけでなく、2つの手裏剣を組み合わせたり、くるくる棒と合体させたり、四角手裏剣を作ったり…。より進化したカッコいい手裏剣を作ろうと、試行錯誤しながら楽しんでいきます♡

ラズベリーはいしゃさん❀

「歯が痛い人はいませんか〜?」と、大きな声で患者さんを探す歯医者さん。ソフトブロックでベッドを作ったり、折り紙と爪楊枝で注射器を作ったり。患者さんがいなくても、ダンボールに囲まれた隠れ家のような空間で、友だちと一緒に喋りしているだけで、なんだかとても楽しそう♪実はこの歯医者さん、時々、人形劇もやっています♪紙芝居や絵本作りを楽しんできた子どもたちは、お話を組み立てることが上手になりました。今は、『お客さんに見せること』より、『自分たちが演じること』を楽しんでいる子どもたち。いっしょにあそぼうの日、果たして人形劇は開催されるのかな〜?

はっけよ〜い!のこった!!

2人の女の子が「おすもうしよ〜」と言って始まったお相撲ごっこ。土俵を作ると、男の子たちも「いれて!」と取り組みを始めました。お相撲をテレビで見たことのある子が、手作りポシェットの中に色紙で作った塩を入れて、土俵の横でスタンバイ。東と西のチームに分かれ、どちらの方が白星を増やすことができるか闘っています。ビニールテープでできた土俵は、ただいま改造中。細長く切ったバスタオルを子どもたちが編んで、立体的な土俵を作っています☆



せいさく いろいろ

いろいろな大きさ、いろいろな形の箱やカップ、トイレットペーパーの芯、折り紙や画用紙を使ってイメージしたものを作って楽しんでた子ども達が、独りで作り楽しんでた姿から友だちと一緒に作りながら、また周りで作っている子ども達から刺激を受け合って楽しむ姿へと変化しています。

年少 「見て、これ〇〇ちゃんみたいにカタツムリのうち
作ってみた」



T 「本当、中にカタツムリが寝てるね」

年長 「どこ、見せて！」

年少 「〇〇ちゃんのウサギのおうちの隣りなんだよ」



年長 「じゃあ、そのお隣りは？」

T 「誰が住んでるのかな…」



年少 「ダンゴムシ？ ちょう？…」



年少 「カラスがいい！ 木がいるよ」

年長 「トイレットペーパーの芯使って作るのはどう？」

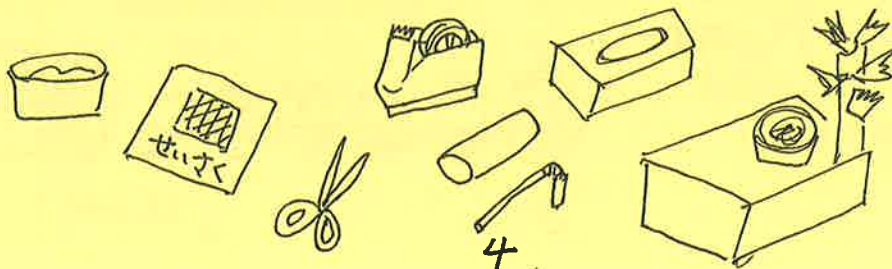


年少 「そうする。やってみるね」

2学期・3学期と関係が深まってきたことや様々な経験を積み、ハサミをはじめとする道具の扱い方が上手になったこと、素材の活かし方を身に付けてきたことを感じた子ども達の会話です。

この後、カラスのためにトイレットペーパーの芯に緑の折り紙を切り、貼り合わせて木を作り、カラスは折り紙の折り方集を見て、折っていました。一緒に作っていた子ども達はウサギの隣りにカタツムリ、その隣りがカラス その隣りは…と話しています。

『お隣り100件のいえ』ができそうです！



すし屋ごっこ

「いらっしゃい！」

「違う、違う へいらっしゃい！！だよ」

「そうか へいらっしゃい」

「何、頼む？ マグロ？ たまごもあるよ」

「じゃあ、たまごとえび ください」

こんな会話を楽しみながら、すし屋が開店しています。

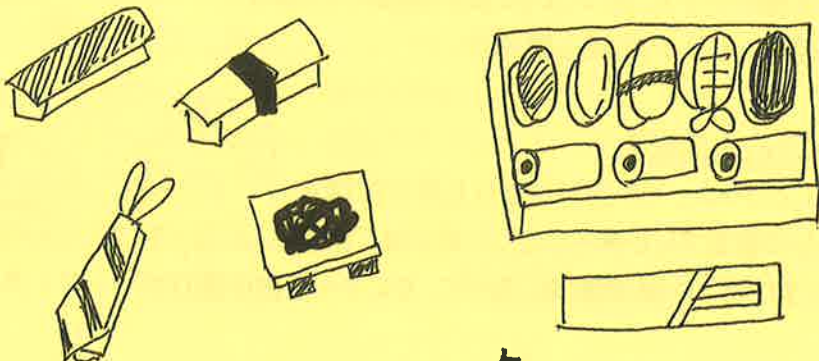


寿司をにぎってサービスすることを楽しむ子、接客を楽しむ子、すし屋らしい場所作りを楽しむ子、お客としてすし屋に来ることを楽しんでいる子、そこでの楽しみ方は様々なようですが、それぞれの持つ寿司屋のイメージを合わせながら、すし屋ごっこが展開されています。

一言でイメージを合わせてと言っても簡単ではありません。個々のイメージは違います。それを言葉やジェスチャーで伝え合っているのです。時に意見が合わず、言い合いになることもあります。また互いの思いがピタッとあった時の何とも嬉しい体験もしています。

このすし屋ごっこは2学期から始まっていました。時に回転寿司だったり、スーパーの寿司を並べるように箱詰めにし、並べていた時もありました。寿司も折り紙を切って作っていましたが、以前に作った木片の寿司を見て、同じように作ってみたいと木片で作った寿司もそこに加わりました。

一つの遊びからそれぞれの興味で様々な経験を積んでいることも違です。幅広く遊びが展開していく様を間近で見ている、次はどんなことに興味を持つのか、何を楽しんでいくのかワクワクしています。



ちょうちょの森をつくりたい



2学期に【虫の世界】ができていたぶどうぐみ。冬になり、虫も冬眠していなくなるから…と虫の世界は一旦終わりになりました。3学期に入り、今度は「ちょうちょの森をつくりたいな～」という声が年長の子どもたちからでてきました。

子どもが描いたイメージ図



木をつくろう

まずは段ボールで木の形を作り、絵具で色付け！今回は足に絵具をつけて、パタパタパタ！！子ども達は寒空の下、裸足になって大はしゃぎでした！



ちょうちょをつくろう

「どんな風にちょうちょを作る？」と聞くと、「紙の半分に絵具を付けて半分に折ると、もう片方にも絵具が付くから、それをちょうちょの形に切る！」【デカルコマニー】という絵具の技法を使ったちょうちょづくりが提案されました。

幼稚園では、絵具の経験を通して、色々な技法を子ども達に伝えています。

そんな経験が子ども達の遊びに生きているのだなあとても嬉しくなりました。

「他にも毛糸とか綿とか、ビーズとか、色々なものを使ってちょうちょを作るのもいいよね！」

という提案も♪

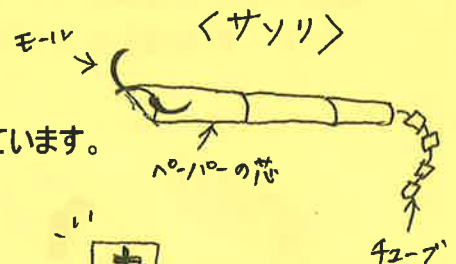
さあ、一体どんなちょうちょの森ができるのでしょうか！楽しみです☆



他にもこんな遊びが...

サソリとおうちづくり

トイレットペーパーの芯やモールを使ってサソリを作っています。「しっぽはどんな風かな？」「はさみの部分はこんな感じ？」と図鑑の写真を見ながら、本物のサソリに近づくように試行錯誤しています。そして、空き箱や段ボールを使ってサソリの巣も製作中...



びょういんごっこ・おままごと

2学期から続けて、おままごとコーナーでの遊びが盛り上がっています。時には病院になってたくさんの患者さんが来ていたり、時にはご飯屋さんになって、おいしいランチやスイーツが出てきたり...また時には秘密基地になって、なにやら秘密の遊びが...♪ (あひま)



